

洋書輸入協会会報

VOL. 6

NO. 10

(通巻66号) 昭和47年10月

理事会報告

9月11日(月)

(一) 8月分収支計算予算対比表の検討。

とくに問題点なく承認。

(二) I/L なし送金の件。

9月1日以降1,000ドル以下の送金についてはI/Lが不要となったが、この通関問題についての通関委員会の関係官庁との折衝につき報告をきき承認。さらに折衝をすすめることを通関委員会に委託。

(三) Richard Abel & Co., Inc. について情報交換。とくにアメリカの2出版社の経験および同社に対する態度についての情報の提供があった。

(四) 海外出版社の代表者である会員との話しあいについて。

賛助会員制の発足にともない海外出版社の代表者である会員がふえている現状に鑑み、またこれらの会員は共通の問題と利害関係をもっていることを考慮して、会員・準会員・賛助会員中の代表者の会合をひらくことに決定。

(五) 情報交換。

9月26日(火)

(一) 雑誌カタログの件。

関西支部製作の協会雑誌カタログの表紙広告および挿入広告について、従来と異なる方法がとられている旨の問題提起があったが、処置については関係会社が関西支部と連絡中なので、その結果をまつこととなった。

(二) 海外出版社代表会員の会合についての報告。

9月18日出版クラブにおいて開催、18社出席、理事会からの要望を伝え、会員の意見をきく上で有意義であった旨の報告があった。

(三) 情報交換。

— 洋 書 あ れ こ れ —

八木さんを開む座談会

(前号よりのつづき)

——：不完全なデータによって本を検索する時、私どもは時には一点の本の為に一日を潰してしまう、なんてこともあるんですが、八木さんなんかには何か秘伝があるんでしょうありませんか？

八木：それはね、直ぐに口では云えないことがありますよね。具体的な事例にぶつからないと、いちがいには云えませんが、そういうば、これは書名じゃないんですけど、こんなことがありました。やっぱり僕が若い頃ですが、一緒に仕事をやってた人が、サッポロ・オーシェーというのはどこの国かというんで、それはサンパウロ州じゃないか、といったら当たっちゃったんで。書名でもそういうことがありますよね。検索ということにしても、何でも疑問が出たらすぐ調べる。電車の中の吊広告でも変な字が出てきたら、うちに帰ってすぐ調べる、というように癖をつけることです。この間もリブリントの目録にアナスタチカとかいうのが出ていて、それがどういうものか疑問が起きましてね。調べてみたんですが、普通の英和辞典には、たゞ「凸版」となっている。しかし凸版じゃおかしい。いろんなものをひっくり返して、結局19世紀の半ば頃フランスで発明されたリブリントの方法だということが判った。これは何か薬品を使って原本の刷を写しとるんで、それをアナスタチック・プリンティングという。その印刷法によったものがアナスタチカで、ヨーロッパではそういう言葉でリブリントの意味が通っちゃってるんで、それがそのまま、ビブリオグラフィーに出てくる。書名を分解しながら一つの知識が増えたわけです。何故このことに関心を抱いたかという、日本でも明治の初め頃から、需要の多い洋書にはリブリントがあって、まあ一種のバイレート版ですけど、それがいかにもきれいに刷ってあるんで、或いはアナスタチック・プリントじゃないかという気がしてきたものですから、印刷図書館にいつて調べてもらったりもしたんですが、どうも日本じゃ使っていないようですね。やはり組版を新におこしてやったものなのかも知れません。

——：それはオリジナルをじかに写してしまうわけですか？

八木：そうです。考えてみれば、はるか以前に日本で中国の本を持ってきて、その「かぶせ彫り」というのをや

りましたね。一冊潰して、袋綴じになってますからそれを開いて裏返しに貼って版をおこしてしまうわけで、版さえるまく出来れば原本と殆ど変りがないわけです。それが本当の複製ですね。さもないければ、原本の上に雁皮紙をあて、きれいに写しとって、普通の版下のようにして、それを裏返しにして彫る。いづれにしても相当精巧なファクシミリ版が出来るわけです。

——：その印刷図書館というのはどこにあるんですか？

八木：それは新富町1丁目6番地です(笑声)。市場通りをずっと行って、元の新富町の停留場のところをちょっと入ったところで、印刷会館、印刷工業会の中にあり、ここは古いんですよ。公開もしてます。

——：そこだとか、製紙博物館などがあるのに総合的な本の博物館とか、図書館がないのは残念ですね。

八木：洋書輸入協会でも、そういう洋書の参考資料を集めて、総合して使えるようにしたらどうですか。

——：我々本屋が本の勉強をする為に読んだらよい、というようなものには、どんなものがあるんでしょうか？

八木：私はそういう質問に答える時、たとえ洋書屋さんであっても、やはり日本のものから始めるべきではないかと思うんです。まあ例えば、田中敬さん、いや田中先生といわなきゃいけないかな、此の方の「図書学概論」のような本は、いまだにそれに匹敵するものはありませんね。部分的に遅れているところはあっても、根本的なところはちっとも違ってない。富山房から震災後に出た本で、今でも時々、古書展に出ますよ。いまだにそれを越すものがないのは難しいのか書き手がないのか。書き手がないってことは、むづかしいってことなんでしょね。

——：検索癖をつけるなんてことも、若い人等におしつけてもなかなかうまくはゆかないんで、やっぱりそれぞれが自分の扱っているものに興味をもって、印刷などのことにも関心を持つようになると、本に愛着が湧いてくるんですが。

——：僕は本屋に働いている人間は、本が好きでなければつとまらないと思いますよ。でなければ、やり切れない。

八木：仕事はたしかに収入をはかる基盤でしょうけど、収入だけじゃわりきれないことでしょうね。

——：実は私んとこに大変優秀なセールスマンが入ったことがありましてね。今までの者が思いつかなかった方法でセールスをやるし、どんな労苦も惜しまない。学校騒動で大学が閉鎖されても、学生と一緒にヘルメットをかぶって学内にも入りこんで仕事をしてきちゃう。これはうちの

セールスに革命が起きる、と思ってたんですが、長続きしないで辞めちゃいました。本が好きになれなかったんですね。

八木：やはり商売ですから、金の早く入る方に品物を動かすというのは当然でしょうが、多少お金の入るのは遅れても、是非ともその本を必要とする方にまづ廻す、ということが却って長続きするんじゃないでしょうか。あまり倒さないですよ、本を買う人は。会社や何かは別でしょうけど。

——：いやその点は、戦後の本屋も墮落したかもしれませんが、お客の先生方も墮落してるのかもしれませんが（笑声）。

——：この間も或る業者の人が云ってましたよ。そういう危いお客さんの名前を、協会の雑誌に発表したらどうか、なんて。

八木：写真をつけてね（笑声）。

——：先程の検索のことに戻りますけれど、若い人等のやり方を見ると、例えば **British Books in Print** を見て、それでおしまいにしてしまう。出ていなければ、ありません、品切れです、で済ましてしまうという点があります。

八木：それはね **Books in Print** だけで応待してたら商売し損なっちゃいます。大損です。記載は簡単でなし、アンチョコですよあれは。もっとも日本の本でも同じことで、出版年鑑なんかを資料に使ってるわけなんだけれど、この間その編輯の人に聞いたら、部門毎に頁数が決っていて、はみ出したものは落とすんだそうで（笑声）。そういうことを考えると案外良い本がおちてるのかもしれない。

——：外国の出版社や取次にしても、訳の判らない、不親切な返事をくれるところもありますしね。

八木：この間、あるお客の話を、外注した本で、どうしても御入用なら再注文してくれ、というカードがついてきたのがあるということです。こんな馬鹿な話はないんで、どうしても人用だから注文をしてるわけで、それを向うから送ってこないからとか、断ってきたからとかいって、お客にこんな返事をすれば、堂々廻りをするだけです。他の本屋さんでもそんなことやってるのだとすると——。

——：仰言る通りで、我々の仕事の良い加減さというものを反省して、一つ一つの注文を大切にしないといけない、そういう時期が来てると思います。

八木：此頃は皆さんの間でよくエージェントをとりますね。その際に、もし可能ならそれぞれのお店でエージェントをとった本について、その本の出来がどうかをつつ

いてみる必要があると思うんで——。愚口を云うようだけど、あまりエージェントを取り過ぎると思います。そんなに外国に対して責任を負う必要はないでしょう。まあ責任を負うのか、儲けようとしているのか。でも結局は、外国の方では責任を負ってくれて良い案配だと思っているに違いないと思うんです。それだけに、人って来た本については、それをつつついて、こんな本を売ったら駄目だ、と向うに云ってやる位のことがあっても良いでしょう。こういうのが実物教育です。

——：たしかに外国の出版社をよるこぼせる為に代理権をとる競争をしているようなところがありますね。そして我々が業者間で競争をするものだから、外国出版社の方でだんだんとつけあがってくるような傾向もあります。

八木：洋書輸入協会で代理権をとったらどうですか。こんなこというと図書館長クビかな（笑声）。

——：いやそれが出来れば理想的なんですが（笑声）。

——：戦前の本の価格はどんな風に決められていたんでしょうか？

八木：それは為替相場の枠の中で設定されてました。うちの事務室の壁には、毎日金銀行の相場が黒板に書かれてましたしね。

——：どの位のフレクシビリティで動いていたものですか？

八木：あんまり動かなかったように思いますよ。例えば金解禁とかなんかでの動きはありましたが、関東大震災なんかではビクとしなかった。まあ戦後は全然事情が違ってききましたからね。終戦後アメリカの請負いみたいな形で本が入ってきて、それを入札かなんかでとったりして。それが習性となって、各会社の経理の基盤もそれから出来てしまっているわけですから、今すぐこれをどうこうするってのは難しいんでしょね。

——：戦前にくらべると、戦後は業者の数も増えましたし、いろいろ違った面も出て来ていると思います。その各々の業者にしても企業の規模、歴史の深淺がありますけれど、しかし論じつめたところでは、みんな本が好きなんだからやっているのではないかと思います。その点ではみんな共通点があるわけです。本屋の基本が大切だという今日の八木さんのお話を伺って、全くその通りだと思っています。若い人達を育て、一人前とはいえなくても、せめて半人前の本屋にしたい、また私達自身もなりたいたいと考えているわけですが、私達の智恵ではどうにもまにあわないというところを、これからいろいろ教えていただきたいと思っています。どうも今日はわざわざお越しいたゞいてありがとうございました。

外資系出版社と日本の出版社

タイム・インコーポレイテッド編集部

三 枝 幸 夫

最近外資系出版社、特に大手のアメリカの出版社の動きが目立っている。それも単なる輸入販売だけでなく、日本語に翻訳、翻案、さらに自主出版という形を次第にとりつつある。たとえば、TBSブリタニカの Encyclopaedia Britannica の抄訳百科事典、グロリア・インターナショナルの Book of Knowledge の翻訳企画、タイムの翻訳および自主企画、リーダーズ・ダイジェストの英語教育関係の出版等々活発な動きが見られる。では、外資系出版社は何を背景としてこのような活動をしているのか、日本の出版社とどこが違うのか——以下この二点についての概観を試みることにする。

外資系出版社の背景

1960年代後半の産業界に吹き荒れたのはコングロマリット旋風であるが、出版界についても同様のことが言える。ちょっと数え上げただけでも、RCA の Random House 吸収、CBS の Holt Rinehart & Winston 吸収、Times Mirror Company の World Publishing Company、New American Library 買収、Time の Little, Brown & Co. 買収、Britannica の G. & C. Merriam 買収、Reader's Digest の Funk & Wagnalls 買収など従来考えられないような規模で資本の集中化が行なわれた。特に注目すべきはソフトウェアの出版社とハードウェアメーカーとの融合である。当時、アメリカでは情報産業ブームと巨額にのぼる政府の教育予算獲得を背景として、コンピューター技術を頂点とする各種の技術革新とアポロ計画で代表されるシステム化の必要が盛んに叫ばれた。結果的には、出版界におけるソフトとハードの融合は、主としてヴェトナム戦争を原因として不成功に終わったが、ハードメーカーが出版界に与えた影響は大きく、おそらくはこの影響が将来さらに大きく出版界を揺さぶることは間違いないと思われる。

この例を挙げると次のようなものがある。1966年末に Random House は大辞典 (RHD) を出版したが、これは辞書編集のコンピュータ化の嚆矢であり、もちろん RCA の影響である。販売面の奇抜な例は1969年に出た American Heritage Dictionary で、手持ちのどんな辞書でも1ドルで下取りするという方法をとった。これは量産体制

を敷く自動車メーカーなどのやる常套手段だが、出版界もいよいよアセンブリ・ライン化した感が強い。前者は編集のシステム化、後者は販売のシステム化の現れとみられ、いずれもハードメーカーの影響と考えられる。

日本の出版社との相違

元来資本力の大きい外資系出版社は前述の事情によりますます資本の集中化を進め、システム化の強化を図っているのに反し、日本では出版社の数は多いが大部分は依然として小企業に止まっている。この差はそれぞれの流通機構に端的に現われている。

外資系出版社は出版物を日本以上に「商品」視する傾向が強いので、その強力な資本力で物を言わせて流通機構を自分の支配下に置こうとする。DM、直販がその例である。本来ならばさらに強力なブッククラブがこれに加わるはずであるが、現在のところまだ実現していない。DM、直販に頼れば出版物の単価は高くならざるを得ない。となるとそれだけ危険率も高くなるので、自ら企画段階で企画内容の検討、市場調査などを慎重に扱うようになる。外資系出版社が企画段階で調査資金を投じ、何よりも数字を重視し、個人的直観力を極力排除するのはこのためである。

他方、日本の出版社は資本力が弱小であるため独自の販売組織を持つことができず、大取次の組織に委託せざるを得ない。また出版物の多くは安いのので、たとえ失敗しても損害はさほど大きくはない。逆に言えば、損害が大きいので企画段階の検討がどうしても甘くなりがちである。目先だけを追う安易な企画——これが日本の出版社の弱点である。

外資系出版社にも弱点がないわけではない。第一に伝統がないので日本の市場をつかみにくい。人材が思うように集まらない。特に一番の泣きどころは書店を基盤として独占的な勢力を張っている大取次組織の存在である。これが現在の組織形態を続ける限り、外資系出版社は思うようにトレード物（廉価版）をさばくことができない。最近日本の流通機構に関する不満は日米経済会議の席上などでも強く表明されるようになってきているが、出版関係でもこの問題が真剣に考えられる時期にきているようである。

「スナイダーが社名変更」

アメリカの二大書籍取次店の一つ Henry M. Snyder & Co. は、このほど社名を Media Directions Inc. に変更した。

同社からの手紙によると、同社の従来の出版社代表業務には変更はなく、名前を変えた理由は、今後本ばかりでなく視聴覚教材その他のメディアを積極的に取扱って業務を拡大して行くという同社の方針に沿って、イメージ・チェンジを計るためであるとのこと。

「アーコが馬の専門書店を買収」

Arco Publishing Company は、このほど A. S. Barnes から、馬と馬術に関する本のみを扱う唯一のブック・クラブである The Horseman's Book Society を買い取った。

Arco は、また、これまで Barnes が出版してきた馬術関係書点約90タイトルを譲り受けた。これらのタイトルに Arco 自身の出版したものを加えれば、Arco は米国最大の馬術書の出版社となるという。

(Publishers Weekly 9月4日号より)

外国出版社の紹介 No. 12

<LONGMAN>

1974年になると、つまりあと二年たつと、250周年を迎えるというから、そうとう古い出版社である。1724年初代 Thomas Longman は25才の若さで、William Taylor という人のもっていた書店 “The Ship and the Black Swan” を、当時の金で約2千ポンドで買取ったのが Longman の最初である。Longman の船のマークは、実にこの時以来変らず続いている。

当時の出版社は、辞典等を出版する場合、先づ予約をとり、数社が協同出資して出版していた様で、初期のロングマンのタイトルページにも、しばしば3、4社の名前が見られる。例えば1746年に出版された Dr. Johnson の Dictionary of the English Language には5社の名前が見られる。又当時は読者の数が極めて少なかったので、(もっともそれらの人は大抵非常に裕富ではあったが) 出版社が、書籍の流通機能のいくつかを兼務していた様である。出版、小売、卸、図書館サービス、古書販売まで兼ねていた。Longman も例外ではなく、その小売部門は相当手びろく、その時代の文人達にも少なからず親しまれていた様である。詩人 Keats は友人からかりた Chapman の Homer をなくした時、「Longman で買はなければ……」と手紙に記している。

18世紀の英国の Book Market は、ほとんど London に限定されていた様である。この事は出版活動の発展という事にかなりの障壁となっていた。初代 Thomas Longman は、この障壁をのり越えるため、アメリカを初めとする、英国の数ある植民地への書籍を通じての英国文化の普及を考えた。この Policy は2代目 Thomas 2世以下に引きつがれ大きく開花するのである。

近年 Longman は世界中の出版界の話題となった合併劇を成しとげた。Financial Times, Economist 等の Peason Group と合併し、更に Penguin Books, Churchill, Livingstone, Oliver & Boyd, Common Ground, Keesing's Publications, Wills & Hepworth, 等を続々併合し、Longman Group Limited として名実共に世界最大の Educational Publisher となった。

「英国で付加価値税を導入」

1973年4月1日から英国でもいわゆる付加価値税が導入されることになった。そのシステムは大体において現行の西ドイツのものと同様であるが、さまざまな無税ないし非課税となる物品を設けている。本や新聞・雑誌の輸出はすべて免税規定の中に入っている模様である。

(Börsenblatt 西独版 9月8日号より)

「フランクフルトのブック・フェア」

第24回を迎えたフランクフルト書籍見本市は、9月28日から開催された。

今年は59カ国から3,683の出版社が参加し、史上最大の規模になった。今年は国際書籍年でもあるので、この見本市も開発途上国による多くの刺激を与えるべく考慮されている。

しかし、ミュンヘンのテロ事件の余波を受けて、パレスチナ・ゲリラの報復の噂が流れており、フランクフルトの当局としては会場警備には万全を期してはいるものの、参加者全員の宿泊まではとても手はまわらず、ひたすら無事に終ることを祈っているようだ。

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

- 9月22日(金)ナウカ株式会社創立20周年記念パーティーが、ホテル・ニューオータニで盛会裡にひらかれた。
- 9月22日(金)株式会社オリオンの創立20周年記念パーティーが椿山荘においてひらかれ、これまた大盛況であった。

このたび国際書房社長服部正壽氏から記念として、協会事務所に掛時計(セイコー・ラジオ・コントロール・トランジスター)がおくられました。

通関統計

外国貿易概況(大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1972年6月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和47年6月	\$6,174,000	1月以降累計	\$27,958,000
昭和46年6月	\$1,929,000	〃	\$10,196,000

(註)昭和47年1月より、郵便物による通関分を含むようになったため前年比が急激に上昇している。

会 員 紹 介

本 と 共 に 40 年 (株) 雄 松 堂 書 店

昭和7年、新田勇次氏が神保町に古書店として雄松堂書店を創立、人文・社会科学関係を取扱っておられた。戦争中に一時中断、昭和26年再開、同時に洋古書にも目を向けられ始めた。昭和35年2月1日に株式会社とし、四谷に移転それより本格的に洋古書、洋バックに取り組まれ、更にはリプリント、マイクロフィルムの方面へも進出していかれる。

今年創業満40年を迎え、その挨拶状の中に次のような文章がある。これは同社の独自のあり方を示すものとして、敬意を表しつつ紹介したい。

「未来の夢の実現には、社員ひとりひとりに優れた経験と能力が求められますし、内外の関係各位から強い信用を得ていかねばなりません。私たちの指向する未来は、決して大型企業化や超合理化企業ではなく、より専門的で、より人間的な企業であります。そしてこのような企業こそ、私たちの念願とする姿であると確信致します。」

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の
Agent List にご記入願います

轉 医 学 書 院

☎ 814-5931

Butterworth & Co. Ltd.

- Blumberg, B. S. et al.: Australia Antigen and Hepatitis.
74 pp. 9 figs. 1972 ¥5,150
- Brod, J.: The Kidney.
700 pp. 1972 10月出版予定 約 ¥28,840
- Krayenbuehl, H. A. & Yasargil, M. G.: Cerebral Angiography.
410 pp. 524 figs. 2nd ed. 1968 ¥19,050

Churchill Livingstone

- Adams, J. C.: Outline of Fractures, including Joint Injuries.
300 pp. 270 figs. 6th ed. 1972 ¥2,310

Marcel Dekker, Inc.

- Farber, E.: Pathology of Transcription and Translation.
(Biochemistry of Disease Series Vol. 2)
232 pp. 1972 約 ¥3,780

Elsevier/ Excerpta/ North-Holland

- Constantinides, P.: Functional Electronic Histology.
350 pp. 1972 12月出版予定 約 ¥6,000
- Meyer, L. & Herxheimer, A.: Side Effects of Drugs. Vol. 7: A Survey of Unwanted Effects of Drugs Reported in 1968-1971.
800 pp. 1972 9月出版予定 ¥16,320

S. Karger AG

- Cohen, M. M. Monographs in Neural Sciences.
Vol. 1; Biochemistry, Ultrastructure and Physiology of Cerebral Anoxia, Hypoxia and Ischemia.
180 pp. 1972 9月出版予定 約 ¥6,820

J. B. Lippincott Company

- Patterson, R.: Allergic Diseases: Diagnosis and Management.
450 pp. 100 figs. 1972 9月出版予定 約 ¥7,200

Little, Brown and Compny

- New York Heart Association: Diseases of the

Heart and Blood Vessels; Nomenclature and Criteria for Diagnosis.

463 pp. 33 figs. 6th ed. 1964 ¥2,700

Snell, R. S.: Clinical Embryology for Medical Students.

360 pp. 1972 ¥3,600

Medical & Technical Publishing Co. Ltd.

Burnet, Sir M.: Auto-Immunity and Auto-Immune Disease.

243 pp. 1972 ¥4,370

Munksgaard International Publishers Ltd.

Warburg, M.: Diagnosis of Metabolic Eye Diseases.

112 pp. 1972 ¥6,500

John Wright & Sons Ltd.

Chamberlain, E. N. & Ogilvie, C. M.: Symptoms and Signs in Clinical Medicine.

584 pp. 383 figs. 8th ed. 1967 ¥3,190

Clain, A.: Hamilton Bailey's Demonstrations of Physical Signs in Clinical Surgery.

15th ed. 1973 1973年3月出版予定 定価未定

Hart, F. D.: French's Index of Differential Diagnosis.

10th ed. 1973 1973年2月出版予定 約 ¥10,300

Lee, J. A. & Atkinson, R. S.: A Synopsis of Anaesthesia.

7th ed. 1973 1973年3月出版予定 約 ¥5,660

McNair, T. J.: Hamilton Bailey's Emergency Surgery.

981 pp. 1,155 figs. 9th ed. 1972 ¥12,870

轉 南 江 堂

☎ 811-7234

Renal Disease in Childhood. 2nd ed.

by J. A. James 1972 11月出版予定 ca. ¥8,100
(The C. V. Mosby Co., St. Louis)

中 央 洋 書 轉

☎ 294-5151

Sciencetchnica (Pub.) Ltd., U. K.

Compazative and General Pharmacology

(Quarterly) Annual Sub. ¥16,500

The International Journal of

Biochemistry. (Bi-Monthly) // ¥16,500

Insect Biochemistry. (Quarterly) ~ ¥16,500

SCIENTECHNICA (Publishers) LTD.

823-825 Bath Road, Bristol, England BS4 5NU



THREE NEW SCIENTECHNICA JOURNALS

COMPARATIVE AND GENERAL PHARMACOLOGY

EDITOR: **Professor G. A. Kerkut**, *Department of Physiology and Biochemistry, University of Southampton, Southampton, England SO9 5NH.*

HONORARY EDITORIAL ADVISORY BOARD:

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| G. Burnstock (Melbourne) | M. J. Michelson (Leningrad) |
| E. Florey (Konstanz) | J. W. Phillis (Winnipeg) |
| H. M. Gerschenfeld (Paris) | R. Werman (Jerusalem) |
| M. J. Greenberg (Tallahassee, Fla) | |

PHARMACOLOGY, in its widest sense, is taken to mean the study of the response of tissues, organs, and animals to the application of chemicals, both natural and synthetic. This broad definition places pharmacology among the most advanced and progressive of the paramedical sciences, and a wealth of significant material is emerging from the active research currently in progress in this field.

(To be Published quarterly, Annual subscription) ¥16,500

THE INTERNATIONAL JOURNALS OF BIOCHEMISTRY

EDITOR: **Professor G. A. Kerkut**, *Department of Physiology and Biochemistry, University of Southampton, Southampton, England SO9 5NH.*

ASSISTANT EDITOR: **Dr. Robert J. Walker**, *Department of Physiology and Biochemistry, University of Southampton, Southampton, England SO9 5NH.*

The New journal has been designed to publish work on the diverse aspects of biochemistry—theoretical, clinical, animal, plant, fungal, and applied. The intention throughout is to present a comprehensive review of the biochemical field in theory and practice. To this end, each article contains a short factual Abstract of its subject-matter, to indicate to the non-specialist the precise significance of the particular paper.

(To be Published 6 times a year, Annual subscription) ¥16,500

INSECT BIOCHEMISTRY

EDITORS: **Professor H. E. Hinton**, *F.R.S., Department of Zoology, University of Bristol, Bristol, England BS8 1UG.*

Professor G. A. Kerkut, *Department of Physiology and Biochemistry, University of Southampton, Southampton, England SO9 6NH.*

HONORARY EDITORIAL ADVISORY BOARD:

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| A. M. Beenackers (Holland) | L. I. Gilbert (Illinois) |
| M. Birt (Australia) | E. Hodgson (North Carolina) |
| H. Chino (Tokyo) | P. Karlson (Germany) |
| A. N. Clements (Sittingbourne, Kent) | L. Levenbook (Bethesda) |
| T. Weis-Fogh (Cambridge) | |

(To be Published quarterly, Annual subscription) ¥16,500

日本總代理店 中央洋書株式会社

東京都千代田区神田神保町1—13

Tel. (03) 294-5151

昭和47年10月 通巻第66号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

〒103 東京都中央区日本橋江戸橋1—15—5 藍沢ビル302号室 ☎ 271—6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371—5329